

## 今回のテーマ ～～

10連休も終わり、新年度明けて1ヵ月以上たちました。新しい職場・環境での仕事も慣れてきたところではと思います。中学校では現在運動会シーズンです。生徒たちが団結して、競技の練習をしたり、準備をしたりする姿を見ると子どもたちの成長を感じます。

## 「現実世界がしぼむ」「eスポーツは依存を助長する」樋口先生インタビュー

WHOから「子どもの身体活動、睡眠に関するガイドライン」が発表されました。ますますゲームと依存の関係性が叫ばれるなか yahoo ニュースのトップ記事になっていた樋口先生のインタビューを紹介します。（一部抜粋）

## 「依存しやすい人は？」

→「久里浜医療センターの研究で（1）ゲーム時間が長い（2）ゲームを肯定する傾向が強い（3）男性（4）ひとり親家庭（5）友人が少ない（6）衝動性が高いなどがリスク要因に上がっている。また、センターにかかる患者の4割ほどがうつ病などの精神疾患を併発している。注意欠陥多動性障害の傾向がある子どもも多い」

## 「文部科学省がスマホの小中学校への持ち込みを解禁する検討を始めたり、eスポーツが盛り上がりを見せたいとゲームが身近になっている。」

→『「eスポーツ選手を目指している」と話す患者が親に連れられ受診している。生活はまさに依存そのもの。『プロになるため』という言い訳で依存状態を正当化し、回復を妨げている。eスポーツがゲーム依存を助長している側面があることは否めない。学校へのスマホ持ち込みは非常に強い危機感を持っている。『いつでもどこでもできる』が依存助長の大きな要因だ」

私も講演に行った際によく「eスポーツが盛り上がっているがどう考えるか」と質問を受けます。ゲーム業界の盛り上がりりと依存症へのリスク、啓発者としてリスク部分を伝えていく努力を忘れてはならないと感じます。

参考：Yahoo ニュース <https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190521-00010002-nishinpc-sci>

## 情報化社会の新たな問題を考えるための教材 指導の手引き 一部改訂

文科省から出ている上記の教材集が平成30年度に一部改訂されました。平成25年度および平成27年度に学校において適切な指導ができるように動画教材等が豊富にそろった教材集として配付されています。今回の改訂ではネットやスマホ利用者の低年齢化を受けて「SNSを通じた出会いの危険性」「スマホやタブレットなどの使いすぎ」に関する教材が追加されています。

注目すべきは「使いすぎ」に関する教材の対象が小1～4になっていることです。もちろん中高生用の教材も従来からあるのですが、今回の改訂で追加されたのは小1～4向けです。利用率の低年齢化を物語っています。内容を見てみると「タブレットはリビングで見るというルールを破り、自室で動画を見続けた主人公」の問題点を考える授業です。「問題点はなにか」「家庭のルールを守れず動画を見続けたしまった理由」「どのようなルールがあればよいか考える」これらの発問で動画と一緒に授業が進められます。

教材は静岡大学の塩田教授が作られています。学校での指導の参考になります。ぜひ一度目を通してみてください！

参考：文科省「情報化社会の新たな問題を考えるための教材～一部改訂～」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/1416322.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416322.htm)